

**平成 25 年度未来経営戦略推進経費
(持続的な大学改革を支える職員育成に係る取組み) 採択事業**

法人名	神奈川歯科大学	学校名	神奈川歯科大学、歯学部
------------	---------	------------	-------------

表題	質保証をめざす歯学教育課程の改革と教職協働による I R 機能の構築
-----------	------------------------------------

取組みの概略

○目的

神奈川歯科大学は、質を保証する歯科医師養成を目指し教育改革に取り組んでいる。改革の骨子は、教育課程の体系化と授業内容・方法の徹底した見直しである。本取組は、これらを踏まえ、新時代の歯科医療の役割と社会の要請にふさわしい歯科医師養成のため、歯学教育課程の継続的な改革、改革を支える教職協働によるエビデンスを基盤とする教育改善を実施することが目的である。

○取組み内容

継続的な大学改革のためには、経営・教学が一体となった改革課題の推進と教職協働による円滑な意思決定システムの導入が必要である。これを実現するために以下の取組みを実施する。

1) 教学 IR 機能の整備

教学に関わる問題点を単に傾向的に分析するのではなく要因・原因分析に発展させ、改善の処方策として立案していくために、教学 IR 室を設置し、教学マネージメントを俯瞰的に把握できる職員を養成する。

2) 教職協働による教育課程の管理・育成

IR 機能によるデータ基盤の改革を推進することで職員が教学マネージメントの実態を理解し、教職協働で教育の体系的な改善を進めるために、教育課程全体を把握できる職員を養成する。

3) グローバル化に対応した職員の養成

外国人留学生の日本語能力向上に貢献できる能力をもつ職員を養成する。

4) FD, SD の実質化

これまで啓蒙的に行われてきた FD, SD を実質化し、FD の結果を真の意味で改革改善に適用する必要がある。とくに、歯学教育の特殊性を理解し的確なデータ解析と改善を実行していくために教職員協働によるセミナーや勉強会、ワークショップ等を開催する。

○効果

1) 教職協働による教学 IR 機能の構築

教職協働の教学 IR 機能と PDCA の仕組みを構築するために、職員が各種のデータを基盤として、積極的に教育改善に関わることができる人材が増加することにより、また将来的には職員による点検・評価、報告書作成などの能力を向上させ教学マネージメントの軸となる職員の養成によって、点検評価の結果を基盤とする教職協働による年度計画の作成ができる。

2) 教職協働による授業管理

教学 IR 機能の構築による教育改善の推進とともに、日常的な教育の実施現場において学生の学修、授業の進行を管理する能力を持った職員、および教育補助員を養成し、さらに定期的に研修会を開催していくことで職員の教育改善への参加を実質化することによって、授業の改善が推進される。

3) グローバル化に対応する職員養成

日本語の歯科医師国家試験に合格することが求められる外国人留学生の学修支援や日本語能力の向上のために日本語学修室を設置し、専任教員を配置するとともに、日本語教育に貢献できる教員および職員を養成することでさらなるグローバル化が推進される。

4) 教職協働の FD, SD の実質化

国の方針を見据えた本学独自の大学改革、教育改革の必要性を共有化し、職員の意識改革を行っていくために、定期的に具体的な課題を取り上げた FD, SD の実施し、得られた有用なプロダクトを積極的に改革・改善に取り込んでいくことで将来ビジョンを共有化し、教職員の責任感が醸成される。

○管理手法

教職協働による教育改革を実施していくために、学長のリーダーシップのもと、教育課程全体を管理運営する人材として職員一名を IR 推進責任者として任命し、総合教育部内に設置した教学 IR 室を管理運営していく。また総合教育部にはすでに 5 名の専任教員、4 名の専任職員および 4 名のパート職員を配置して、授業実施のサポート、学生の出席管理、e-ラーニングのための授業の記録管理を行っている。これらの教職員によって日常的な授業の進捗、e-ラーニングコンテンツの蓄積と管理、学生の学習及び生活支援、データベースによる授業の改善、外国人留学生の日本語学修支援等を行っていく。

○結果・課題

1) 教学 IR の構築

平成 25 年度には、歯学教育課程を理解し、IR データの収集および分析結果を教学面の改善に反映できる能力をもつ職員を育成するために、教学 IR 室を設置した。また、教学マネジメントに関わるデータを集積し一元管理するシステム (Campus Magic) を導入し、本学の特性に合致するデータの蓄積・管理システムを構築する計画で、すでに種々のカスタマイズを行い、昨年 12 月から試験的な運転を開始した。26 年度 4 月から本格開始の予定である。また本年度は、これまでに蓄積してきたデータを教学 IR 室に集め、今後の解析に利用する準備を進めている。平成 26 年度初期に、平成 25 年度のデータを整理、解析し、報告書を作成できる見込みとなっている。

2) 教職協働による授業の管理と育成

今年度からの学位プログラムの改革においては、5 ステージ制を導入した。また教育改革の専門部署として立ち上げた総合教育部に、日常的な授業支援のために授業補助員を配置した。現在このシステムは有効に運用され、各ステージにおける GPA の管理や、落伍傾向にある学生の早期発見と早期対応において重要な役割を果たしている。来年度は、この授業補助員による授業支援システムをさらに進化させ、さらなる改善に向かうために職員の能力向上を図っていくことが課題である。

3) 教職協働による教育改善の実質化

教職協働体制で構築された総合教育部は、歯学教育課程の構築や実施に対応できる体制を整えている。教学 IR 機能の構築により、データを基盤とする教育改革、授業の改善を行っていくが、PDCA サイクルを管理するために、IR データをもとに点検評価としてまとめる能力や、具体的な改善のための施策を立案できる人材の育成が必要である。今後は、本学大学院の疫学統計を専門とする分野に職員を一定期間所属させ、具体的な事例をもとにデータの管理や分析技術を学ばせ、歯学教育に精通し、かつ統計手法にも明るい職員を育成することが最優先の課題である。

4) グローバル化に対応した職員養成

歯学教育の国際認証基準による質保証に対応すべく教育内容を見直し、グローバル化に対応する教育課程の体系化を進めている。また、外国人留学生の学習および生活支援のために国際交流部を設置する準備を進めている。本学はすでに、外国人留学生を 10%程度入学させている。現在外国人留学生の学修および生活支援のために 1 名の専任教員と 2 名の専任職員を配置し、教職協働によるグローバル化に対応する国際交流機能を形成しているが、今後は、国際交流部のさらなる整備を進めていくことが課題である。教職員に対しては日本語教育講座の開催、あるいは外部の教育機関への人材派遣によって教職員の日本語教育能力を向上させ外国人留学生に対する支援体制を向上させる。

5) FD, SD の実質化

歯学部を目指す学生が本学に入学してよかったと実感し、自信をもって社会に巣立ち、医療界で活躍できる人材を育てる大学に転換するために、教育はいかにあるべきか、どのような学修環境を提供すべきか、またグローバル化にいかに対応すべきかなど、実質的な教職協働のFDの展開を進め、さらに得られたプロダクトをいかに実質化していくかというところまで展開する。そのためには教員のみでなく職員と協働して、あるいは課題によっては職員が主導的にFDを展開していく。

図：教職協働による教学IRプロジェクトの5カ年計画

2017年までの5年間を授業改善準備期（平成25年、26年）、授業改善実践期（平成27年28年）、および質保証のための評価点検期（平成29年）に分け、教職協働の教学IRシステムを完成していく計画である。

教職協働教学IRプロジェクト5カ年計画

1. 教学IRの構築:データベースによる質保証システム

2. 教職協働による授業の管理と育成

3. 教職協働による授業改善の実質化

4. グローバル化に対応した職員養成

5. FD, SDの実質化

